

平成28年10月27日

第2号 (仮称) 厚田小中学校 設立準備委員会だより

発行 委員会事務局 (石狩市教育委員会総務企画課)

このたよりでは、厚田区の統合新設校(小中一貫の義務教育学校)の平成32年度の開校に向けて、設立準備委員会で検討している内容や教育委員会、学校、PTAなどの動きを中心にお伝えします。

“厚田ならではの”魅力ある学校 について考えました

10月7日(金)、第2回会議が厚田保健センターで開催されました。

14名の委員がワークショップ形式で、厚田区の各学校や各地域が持っている「強み」と「弱み」を洗い出して、よりよい学校づくりの提案をまとめました。

●「強み」としては・・・

「学校と保護者・地域の強い絆」「米作り、漁業体験など第一次産業が学べる」「ふるさと学習」「地域文化の伝承(厚田音頭、獅子舞など)」「小中一貫なので、9年間を見通した教育ができる」

このよさを生かすために、「今までの各学校の行事や特色を整理継続する」「地域行事を体験」「地域文化の伝承」「各地域の良さを体験して学ぶ」ことなどが提案されました。

●「弱み」として・・・

「学校区が広い」「学校までの遠距離」「冬の通学が大変」「少年団・部活試合の送迎が大変」「先生の人数が少ないので、忙しそう」

こうした弱点を克服するために、「スクールバス運行の工夫」「小中の先生方の連携」「中学校の先生が小学校TTに入る」などが提案されました。

● 子供達については「素直」「仲がいい」「生き生きしている」「挨拶がよくできている」「誠実」「先輩後輩のつながりが強い」「学年を超えた学び合い」「中学生が小学生を指導、良い手本」などの強みの部分と、「(少人数のため)人間関係が固定」「集団での経験が少ない」「切磋琢磨の機会が少ない」「多様なグループ分けが難しい」「部活



↑ グループごとにまとめた提案を交流しました

の選択肢がない」「競争心が育たない」などの弱みの部分が指摘されました。

これらを踏まえ「全校一緒の活動。縦割りの工夫。6・3制から□・□・□制へという学年割りの工夫。」などが提案されました。

第3回の会議では、今回提案された事柄を具体化するための方策を検討することについて、佐藤委員長から提案されました。

※ワークショップの具体的な内容は、ホームページでご覧いただけます。

「子どもアンケート」を実施します

新しい学校づくりの主人公、厚田区の子供達からの意見も、学校を通して大募集します。

「こんな学校にしたい。こんな学校ができたらうれしい。(例：こんな行事が、こんな学習が、こんな活動ができる学校)」

「そのために、どんな校舎ができればいいか」



「新しい学校が厚田の未来づくりに役立つために、新しい学校またはあなたにできることは」



「新しい学校が厚田の未来づくりに役立つために、新しい学校またはあなたにできることは」

“義務教育学校”の先進校、 中標津町立計根別学園を視察してきました

新設される(仮称)厚田小中学校は、小中一貫の「義務教育学校」という新しい種類の学校になります。義務教育学校は、現在全国に22校、北海道には、中標津町立計根別学園と斜里町立知床ウトロ学校の2校が設置されています。

10月3～4日に、設立準備委員会の佐藤委員長と事務局(市教委職員)で、中標津町教育委員会と計根別学園を視察してきました。

義務教育学校は、小学校と中学校を一つにまとめた学校で、9年間を見通した教育目標を設定し、教育課程を編成しています。独自教科の設定や学年間での指導内容の入れ替えも可能です。

計根別学園は、中標津町西部にあった計根別小学校、計根別中学校、西竹小学校を統合して、平成27年に開校し、本年4月より学校教育法の改正によって設置が可能になった義務教育学校になりました。開校と同時に校舎を全面改築しています。



↑ 9年間の子供の成長を支える工夫に満ちた校舎

広々とした校舎では、136人の子供達が元気に学んでいます。1年生から4年生、5年生から7年生、8・9年生の三つに段階を区切り、それぞれ「学びや生活の基礎となる力を身につける期間」「学びを追求し、人間関係を結ぶ力をつける期間」「学びを伸ばし、自分の生き方を追求する力をつける期間」としています。また子ども達には、これらの各段階に応じた役割を担わせることで責任感やリーダーシップを高めさせるとともに、毎日の掃除など縦割りの活動を行うことで、学年を超えた仲間意識を育てているそうです。この区切りを活用し、「中1ギャップ」といわれる様々な問題の克服に取り組んでいます。



↑ 左が教室、右は特別教室、中間が多目的スペース

また、中学校の先生が、5・6年生の理科、社会、体育の授業や、算数のTTに入ったり、1年生から9年生の音楽を専門の先生が指導したりするなど、様々な形で先生方が子供達と関わることで、9年間を見通した教育の効果が高まっています。

校舎には、義務教育学校の特色を生かす工夫が随所に見られました。南側に普通教室と特別支援教室、北側に特別教室や図書館が配置されています。中央には、多目的スペースがあり、子供達の様々な活動が可能になっています。

このほか、新設校でも導入する「コミュニティ・スクール」として、地域と強く結びついた教育が進められています。地域の住民や近接する中標津農業高校と連携した『計根別食育教育』は、「地域を知って地域を愛し、地域に貢献する子供の育成」に重要な役割を果たしていることがわかりました。

学校の仕組み、具体的な運営、校舎の工夫、地域との連携など、(仮称)厚田小中学校の開校に向けて、大変参考になる有意義な視察でした。

第3回会議

傍聴をお待ちしています。

日時 11月10日(木) 18時30分より
会場 厚田保健センター

【発行】

(仮称)厚田小中学校設立準備委員会事務局
(石狩市教育委員会 総務企画課内)

電話 72-3169 / FAX 75-2276

E-mail soumu-k@city.ishikari.hokkaido.jp

このほか、石狩市のホームページでも、学校設立準備委員会の情報をお知らせしていきます。